

## (373) 冷延ミルバックアップロール用キーレス軸受による実機圧延結果

(圧延機用完全キーレス油膜軸受の開発 - 第2報)

住友金属工業㈱ 鹿島製鉄所 山本宣雄 子安三彦 山田富三郎  
 長末守正 ○西野隆夫  
 三菱重工業㈱ 広島造船所 花本宣久

## 1. 緒言

第1報にて完全キーレス油膜軸受の開発について報告をした。本報ではこのキーレス軸受に改造したバックアップロールを鹿島冷延連続ミルの#1スタンドに組込んで実機圧延を行い、ロール偏心低減効果および板厚精度改善効果が確認できたので、結果を報告する。

## 2. 実機バックアップロール用完全キーレスロール仕様

実機圧延に使用したバックアップロールの軸受概略図及び仕様をFig. 1, Table 1に示す。本ロールは鹿島連続タンデムコールドミルの#1スタンドの上下に適用して、キスロール時の荷重変動、板厚精度への影響、耐久性、及びロールショップでの作業性について効果の確認を行った。

## 3. 実機圧延結果

## 3・1 荷重変動低減効果(キスロール時)

Fig. 2にキスロール時の荷重変動測定結果、またTable 2に各ペアリングタイプの荷重変動量の比較を示す。完全キーレス軸受型バックアップロールでは、荷重変動11[ton-f]

と従来型キ-付ペアリングタイプに比べて、キ-溝がないため、約50~70[%]の低減効果が確認できた。

## 3・2 板厚精度改善効果

#2及び#5スタンド出側に配置されているX線厚み計チャートより圧延中コイルの板厚振れ幅を読みとり、比較した結果をFig. 3に示す。完全キーレス軸受型バックアップロールでは#5スタンド出側板厚で約18[%]の改善効果が認められた。

更に、複数スタンドへこのバックアップロールを組込んだ場合の想定圧延(#1~#3スタンド:ソフト制御=200[ton f/mm])を実施した時、ミル最終出側板厚で約42[%]の改善効果が確認された。

## 3・3 耐久性およびロールショップでの作業性

昭和59年9月から、#1スタンド上下に組込んで本格的な実機圧延を開始して、これまで約90万トン(ミル9回組込)圧延したが、焼付などのトラブルは全く皆無である。

また、ロールショップでの作業性に関して、従来のキ-付ペアリングに比べてキ-溝へのスリープの合わせ作業や部品数削減などにより、チョック着脱作業の改善が可能になった。

## 4. 結言

完全キーレス軸受型バックアップロールの開発、実用化の成功により、板厚精度が大幅に向上される目途が得られた。

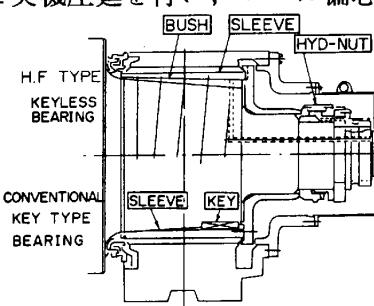


Fig. 1 Structure of H.F type keyless bearing

Table 1 Specifications of back up roll at Kashima's tandem cold mill

Item	Contents	
Back up roll dimensions	Barrel length	1704 (mm) (68")
	Diameter	1524 (mm) (60")

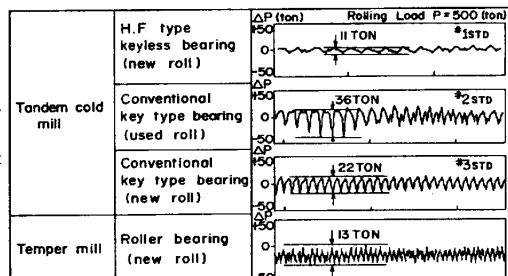


Fig. 2 Chart of Rolling force fluctuation

Table 2 Comparison of rolling force fluctuation at kiss roll test

Bearing Type	Conventional key type bearing	Roller bearing	H.F type keyless bearing	Reduction of rolling force fluctuation (%)
Rolling force fluctuation for used roll (peak to peak)	A 36(ton)	B 13(ton)	C 11(ton)	64 (%) 69 (%)
Rolling force fluctuation for new roll (peak to peak)		22(ton)	13(ton)	41 (%) 50 (%)

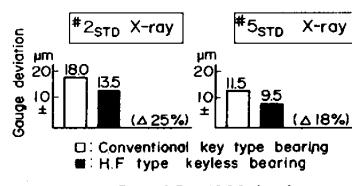


Fig. 3 Comparison of gauge deviation